

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語学Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1)
対 象 学 年	1	学期及び曜時限	後期	教室名	702
担 当 教 員	古田 功 士				
実務経験と その関連資格	大学、大学院にて言語学や音声学などを学ぶ(文学修士)。言語聴覚士として成人の言語障害などについて急性期から維持期に至るまで15年以上の経験を持つ。また臨床と共に日本言語聴覚学会での研究発表や音声言語についての勉強を続けており、本校以外にも言語聴覚士養成校や大学にて非常勤講師として言語学、音声学、音響学など音声言語についての講義を10年以上担当。京都・滋賀にて臨床のSTさん向けの勉強会『臨床の学び舎 おんせいげんご』(https://onsei-gengo.jimdosite.com/)を主催の一人として定期開催。				
《授業科目における学習内容》					
この講義では言語学や音声学、音響学などの音声言語関連の基礎科目の知識の定着を図る。前半は言語について考察する技術として知識を用いるグループワークなどを行う。また後半は国家試験問題の解法へとつなげるため、国家試験の過去問に取り組む。					
《成績評価の方法と基準》					
演習課題についてのレポート提出:40%、科目修了試験:60%。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
言語学、音声学、音響学などで指定された教科書と言語聴覚士テキスト。					
《授業外における学習方法》					
演習課題への取り組みは各自(各グループ)それぞれで必要に応じて。国家試験の過去問については必須となる授業外学習は特になし。					
《履修に当たっての留意点》					
音声言語関係の基礎科目は難解に感じる方が多いと思いますが、この講義での演習などを通じて、少しでも各分野の理解と興味に繋げて頂けたらと思います。					
授業の 方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	身近な言語現象について考察する課題の立案と準備。	言語聴覚士テキスト、 各講義の配布資料、 指定教科書など。	取り組む課題内容の必要に応じて、 テキストや教科書、文献などで 知識を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	グループで課題として取り組める言語現象を挙げ、視点や方法など考察する手立てを立案する。			
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	身近な言語現象について考察した内容をレポートにする。	言語聴覚士テキスト、 各講義の配布資料、 指定教科書など。	取り組む課題内容の必要に応じて、 テキストや教科書、文献などで 知識を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	メンバーでの議論や意見交換を通じて考察を深める。			
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	身近な言語現象について考察した内容をレポートにする。	言語聴覚士テキスト、 各講義の配布資料、 指定教科書など。	取り組む課題内容の必要に応じて、 テキストや教科書、文献などで 知識を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	メンバーでの議論や意見交換を通じて考察を深める。			
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	自分のグループ以外の取り組みからも学ぶ。	言語聴覚士テキスト、 各講義の配布資料、 指定教科書など。	取り組む課題内容の必要に応じて、 テキストや教科書、文献などで 知識を確認する。	
	各コマに おける 授業予定	各グループごとにPresentationを行う。			
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	IPAの意義と理解。実際の考察における使用にむけた準備①	言語聴覚士テキスト、 配布資料。	音声学の講義時の資料などに、 改めて目を通しておくと良い。	
	各コマに おける 授業予定	言語聴覚士テキストの「音声学」の章の復習。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	IPAの意義と理解。実際の考察における使用にむけた準備②	言語聴覚士テキスト、配布資料。	音声学の講義時の資料などに、改めて目を通しておくと良い。
	各コマにおける授業予定	言語聴覚士テキストの「音声学」の章の復習。		
第7回	授業を通じての到達目標	Sound Spectrogramに現れる母音の音響特性を理解する。	言語聴覚士テキスト、配布資料。	音響学の講義時の資料などに、改めて目を通しておくと良い。
	各コマにおける授業予定	言語聴覚士テキストの「音響学」の章の復習。		
第8回	授業を通じての到達目標	Sound Spectrogramに現れる子音の音響特性を理解する。	言語聴覚士テキスト、配布資料。	音響学の講義時の資料などに、改めて目を通しておくと良い。
	各コマにおける授業予定	言語聴覚士テキストの「音響学」の章の復習。		
第9回	授業を通じての到達目標	Sound Spectrogramを立ち上げて使用することができる。	言語聴覚士テキスト、配布資料。	音響学の講義時の資料などに、改めて目を通しておくと良い。
	各コマにおける授業予定	言語聴覚士テキストの「音響学」の章の復習。		
第10回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【言語学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		
第11回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【言語学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		
第12回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【音声学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		
第13回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【音声学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		
第14回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【音響学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		
第15回	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問を通じて知識を整理する。【音響学】	言語聴覚士テキスト、配布資料。	予習よりも講義後にこの分野の過去問の傾向と解法について十分な理解ができるよう復習することをお勧めする。
	各コマにおける授業予定	該当する分野の国家試験過去問に取り組み、その解法についても解説する。		